



中塚 寛 おおい町長

「貫して「みんなが主役のまちづくり」を掲げ、町民に身近な町長として町民と共に活力あるまちづくりに邁進する中塚寛おおい町長。地域の様々なチャレンジを応援する一方、「こども・子育て応援日本一」や「わかさ・チャレンジ応援日本一」をスローガンに掲げた様々な取り組みは着実に実を結び、原子力立地の町を預かる者としても努力を惜しまない。コロナも前向きに捉え、新たなチャレンジに意欲を燃やす。

全4ページ中2ページ表示

中塚 寛

Hiroshi Nakatsuka

おおい町長

なかつか・ひろし 昭和34年7月26日生まれ。京都産業大学経済学部中退。平成15年名田庄村議、平成18年からおおい町議3期。平成24年議長、平成26年4月おおい町長に初当選。平成30年再選。おおい町三萬趣味・山女魚釣り、鮎釣り、洋画鑑賞。

町民力を合わせて

新たな可能性に向かってチャレンジ

すべきことは何か 前進あるのみ！

平成26年春、合併前の旧大飯町時代から約15年の長きにわたり町政を牽引した時岡忍町長の勇退に伴い行われたおおい町長選。新人同士の一騎打ちとなり、旧名田庄村議1期、おおい町議3期、議長も務めた中塚寛氏が僅差で初当選を果たした。

4月2日に初登壇し、町職員を前に「今まで誰が何をしてきたかに決してとらわれることなく、今後何が必要なのか、何が本当に価値ある取り組みなのかをしっかりと確認し、業務にあたっていただきたい。一緒に町民の皆様へ納得、信頼していただける町政に取り組んでいきましょう」とあいさつ。おおい町は新たなスタートを切った。

4年後、前回と同じ候補者と争い、町民の信任を得て大差で再選。地域間競争に埋没しないために「何ができるか」から「すべきことは何か」に変え、おおい町の新たなまちの創出に不転の決意を持って臨んだ2期目も最終年度を迎えた。2期目後半はコロナ対策に追われたが、この危機も東京一極集中から分散社会へ、田園回帰のムーブメントをチャンスと前向きに捉える。その溢れる発想力と先見性、

実行力は他に比類なきものがあり、そこには人間愛がある。自分のことは後にして、まづ人に喜んでいただくことをする、そこに幸せがある。「忘己利他」を座右の銘とし、町長として、人としてそこに一歩でも二歩でも近づきたい。ふるさとおおい町とそこに住む人々のために、すべきことは何か。常に考え、即行動、前進あるのみ。そこに、何の迷いもない。